九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

シンポジウム ： 情報管理組織のミッションと専門職養成

岡崎, 敦
九州大学大学院人文科学研究院 ： 教授

大沼, 太兵衛
国立国会図書館

平野, 泉
立教大学共生社会研究センター

渡邊, 由紀子
九州大学附属図書館学術サポート課長

https://doi.org/10.15017/4738541

出版情報：2021-11-27. 九州大学大学院統合新領域学府ライブラリーサイエンス専攻
バージョン：
権利関係：

2021年11月27日、於九州大学中央図書館

シンポジウム
「情報管理組織のミッションと専門職養成」

主催：九州大学大学院統合新領域学府ライブラリーサイエンス専攻、九州西洋史学会

共催：九州大学附属図書館、九州大学大学文書館、九州歴史科学研究会

協力：科学研究費補助金挑戦的研究（萌芽）「国際化、情報化環境における歴史資料の公共的利活用と管理に関する基礎的研究」

九州大学

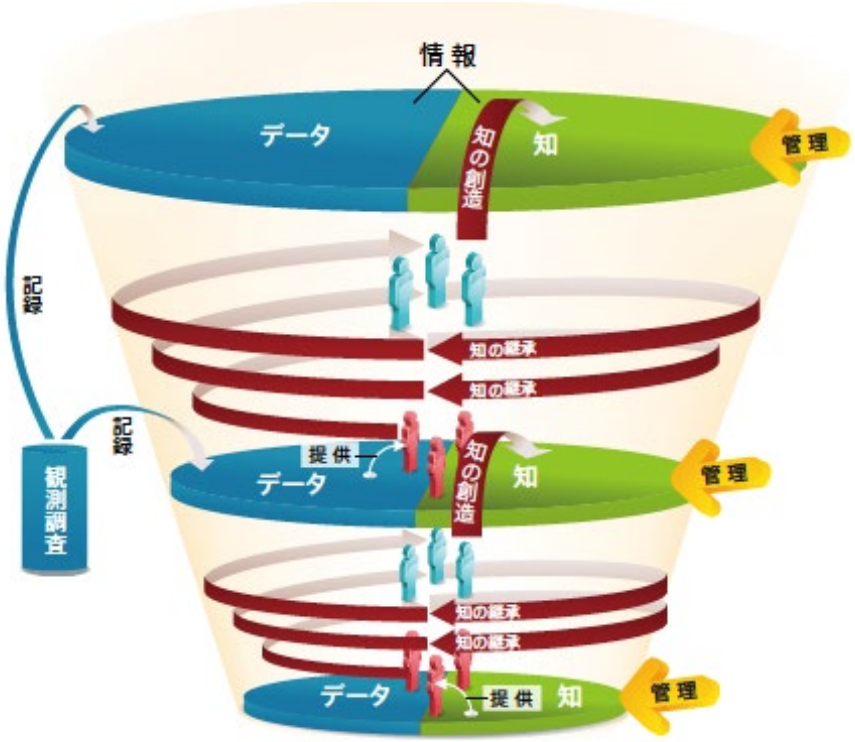
開会挨拶

主催者

- 九州大学大学院統合新領域学府ライブラリーサイエンス専攻
  ～九州大学附属図書館、九州大学大学文書館
- 九州西洋史学会
  ～九州歴史科学研究会

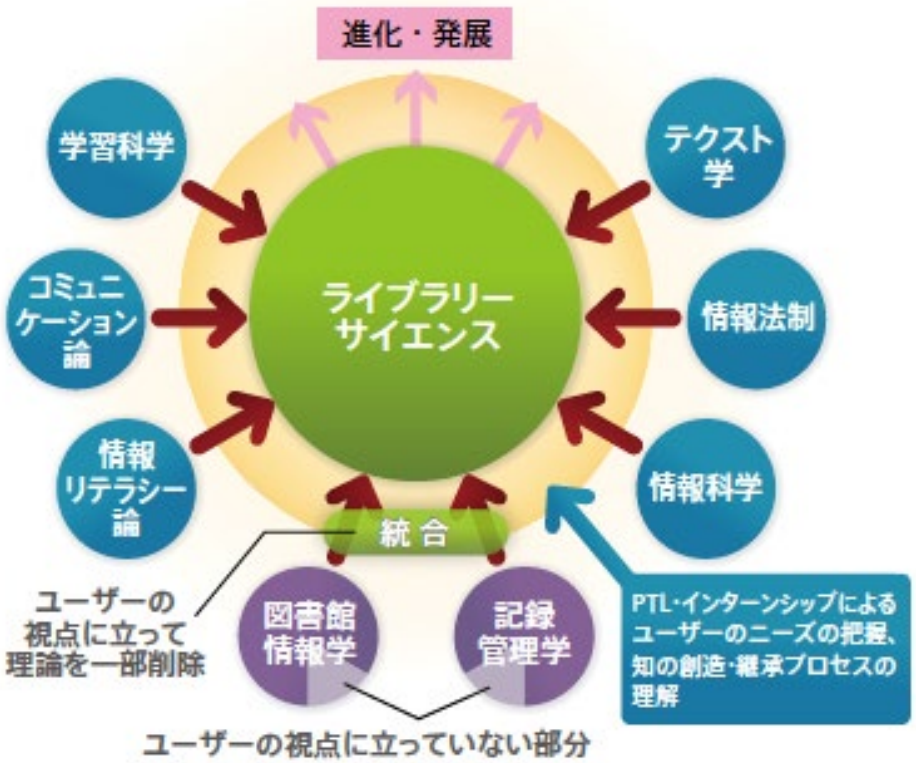
統合新領域学府ライブラリーサイエンス専攻

2011年4月修士課程、13年4月博士後期課程発足



- 必要な情報を効率的に、いつでもどこでも入手したいというユーザーの要求に、現在の情報管理機関は充分に対応できていないように見えます。
- 電子媒体やWEB上での情報の生成、発信、利用においては、法制、行政等の面でも、多くの課題を突き付けられています。著作権や情報公開、個人情報保護等の諸問題の前提には、適切な情報の管理、利用が不可欠であり、両者は一体として解決していくことが求められます。

統合新領域学府ライブラリーサイエンス専攻

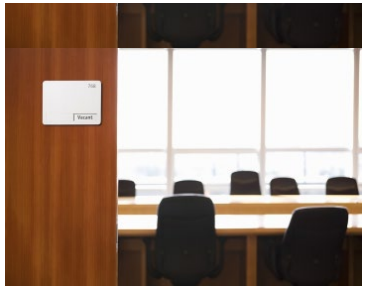


- ユーザーのニーズと知の創造・継承プロセスを把握するための理論や技能に関する教育
- 情報の管理・提供を実現するための、データエンジニアリングを含む情報通信技術の教育
- 電子媒体の情報も対象とした、情報法制の現状ならびにその哲学に関する教育と流通制度に関する教育
- これからの情報の管理・提供のあり方、知の創造・継承活動を支える「場」のあらたな機能などについて探求する能力を身につけさせる教育

LSS主催の最近の主なシンポジウム等

- シンポジウム「資料・情報資源管理組織のミッションと専門職人材」(2021.11.27)
- シンポジウム「遠隔医療とデータ・ガバナンスの共創」(2021.03)
- シンポジウム「情報ガバナンスと文理融合教育の課題」(2020.01)
- セミナー「研究インパクト指標」「大学における研究データサービス」(2019.12)
- セミナー「自治体がつくる公文書管理時代」(2019.10)
- シンポジウム「オープンデータと大学」(2019.01)
- シンポジウム「高等教育の国際化と大学図書館」(2018.12)
- ワークショップ「公文書管理法時代における自治体のとるべき施策」(2018.10)
- 講演会「Computational Archival Science」(2018.02)
- シンポジウム「情報管理専門職をめぐる民間企業・大学」(2017.11)

九州西洋史学会は、自由で公正な学問の発展に寄与することを通じ



大会・総会

１年に２度、春季と秋季に大会を開催しています。

若手部会

九州地区の西洋史分野の若手研究者育成をめざして、発足されました。

学会誌・投稿規定

九州西洋史学会では、学会誌『西洋史学論集』を毎年発刊しています。

関連学会・研究会

会員関係の情報の発信、共有に積極的に協力しています。

PROFILE

九州西洋史学会事務局

〒819-0395
福岡県福岡市西区元岡744
イースト1号館6階　B-610
九州大学大学院人文科学研究院西洋史学研究室
TEL.092-802-5091
E-mail.
kyushu.seiyoshigakkai@gmail.com

ABOUT

九州西洋史学会は、九州にゆかりの西洋史研究者により1950年に創設された「西洋史学研究会」を全身とし、事務局を九州大学文学部、西南学院大学文学部、福岡大学人文学部、九州大学教養部をへて、現在は、九州大学文学部西洋史学研究室に置かれています。

創設以来、大会や研究会を開催するとともに毎年１冊の学会誌『西洋史学論集』を発刊しています。

NEW INFO

2021年03月18日　【大会・総会】2021年度春季大会のプログラムを公開しました。

九州西洋史学会主催の最近の関連するシンポジウム等

- シンポジウム「資料・情報資源管理組織のミッションと専門職人材」(2021.11.27)
- シンポジウム「遠隔から考え直す歴史教育実践」(2021.04)
- シンポジウム「公共歴史学、公共考古学の射程」(2019.04)
- シンポジウム「資料と公共性　―市民のための資料・情報管理とは」(2016 .11)

シンポジウム
「情報管理組織のミッションと専門職養成」

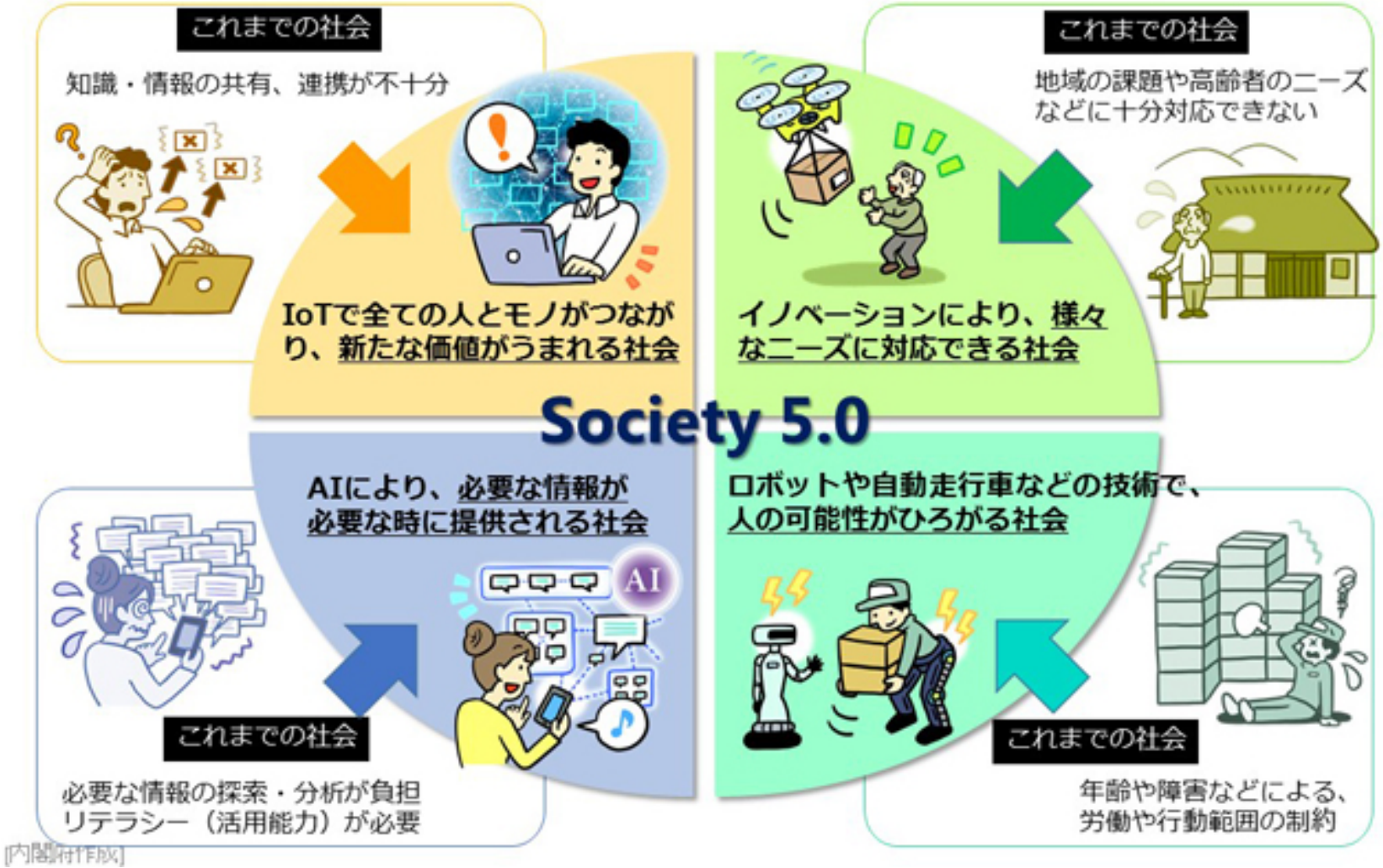
趣旨説明

岡崎敦
九州大学大学院人文科学研究院
統合新領域学府ライブラリーサイエンス専攻

九州大学

Society5.0時代のデジタルデータ管理における、多面的アプローチの必要性

- ICT環境におけるデジタル（ビッグ）データの利活用
  - Society5.0 for SDGs時代における、大規模デジタルデータ群（ビッグデータ）管理の重要性
  - 情報技術だけでなく，リスク管理、プライバシー・人権保護や、法令，データ管理・継承、さらには政治、経済、社会全般の動向など（ELSI）、多様な観点からの検討が必要



内閣府HP： https://www8.cao.go.jp/cstp/society5_0/

国際連合広報センター:
https://www.unic.or.jp/activities/economic_social_development/sustainable_development/2030agenda/

Society5.0時代のデジタルデータ管理における、多面的アプローチの必要性

- データの共有によるイノヴェーション創出の基盤
  - データのオープン化と、それらを用いたあらたなイノヴェーション創出は、官・民、学術問わず、世界的な課題
  - データの保存や基盤整備だけでなく、データの流通手法の整備や、異なるデータのリンクなどによって、社会のさまざまな課題解決に貢献

情報ガバナンス:オープンデータと管理統制との両立

■ オープンデータと社会

■政治や組織運営、社会の透明性と信頼性、効率化;経済成長・イノベーション、雇用創出

■公共部門のオープンデータ開放・利活用:官民データの共有、市民による利活用

～民主主義の進化

情報ガバナンス:オープンデータと管理統制との両立

- 情報ガバナンス
  - 組織内の情報を監督、規律し、適切に提供、利活用するためのルールや態勢を整えること。責任ある組織運営、社会秩序の維持基盤としての情報管理
  - 情報共有社会の中でのリスク管理、人権保護問題
  - 情報技術の発展と社会秩序維持、人権保護等の関係についての、公正な合意形成手続き

シンポジウムの趣旨と課題

- 情報化の新たなステージにおける資料・情報資源管理の性格とはなにか
  - 外部からもたらされた資料・情報資源をただ保存するだけではなく、情報資源の生成から流通、適切な利活用など、幅広いプロセス全体への関与
  - 情報操作や取引などに関する倫理、法制度、政策などへの理解の必要性

⇔狭いコンテンツの世界への閉じこもり

シンポジウムの趣旨と課題

- 社会的合意のもとでの適切な情報管理の諸条件とはなにか（公共的な情報管理）
  - ELSI（Ethical, Legal、Social Issues）でも主張されるように、課題は、情報技術にとどまらない広い射程
  - 専門性（学問）の社会の中での位置づけ（科学技術社会論　STS）：皆が専門家？、政策・意思決定の根拠（誰がどこで決めるのか）
  - 社会運動や個人の記憶と記録の管理は誰の責任か

シンポジウムの趣旨と課題

- 新しい情報管理の現場を担う専門職人材はどのように養成、キャリア形成されるべきか
  - 欧米の専門職養成とキャリア形成：教育＝学位と専門職の結合、専門職＝管理職、職場の流動性
  - 多様なキャリア：職場の多様性、社会のニーズの多様性
  - 体系的な理論教育の共有による専門職学位教育の確立と、管理職キャリアの開拓　⇔現場での狭い経験
  - 公的部門に加えて、民間部門の開拓
  - 専門職団体の重要性

シンポジウムのプログラムと登壇者

- 13時30分～50分：開会挨拶、趣旨説明（岡崎敦）

- 13時50分～14時35分：大沼太兵衛（国立国会図書館）
- 14時35分～15時20分：平野泉（立教大学共生社会研究センター）

- 15時20分～35分：休憩

- 15時35分～55分：渡邊由紀子（九州大学附属図書館、ライブラリーサイエンス専攻）
- 15時55分～17時：総合討論

シンポジウムのプログラムと登壇者

■ 大沼太兵衛（国立国会図書館）
「デジタル時代に求められる司書の専門性とは」

■ 2006～　国立国会図書館司書：大規模デジタル化プロジェクト参画

■ 2011～13　フランス国立古文書学校修士課程（デジタル・ヒューマニティーズ）：長期在外研究員

シンポジウムのプログラムと登壇者

■ 平野泉（立教大学共生社会研究センター）
「アーキビストは資料・情報管理の専門職なのか」

- 学習院大学大学院アーカイブズ学博士後期課程単位取得退学
- 「日本における反アパルトヘイト運動とその記録」（2019）；「研究者アーカイブズを考える：歩き、読み、書いた二人の事例」（2018）；「市民運動の記録を考える：アーキビストの視点から」（2016）
- オンライン・シンポジウム「市民が作る・市民が使うアーカイブズ―アクセスをめぐる課題」（2021年10月10日）

シンポジウムのプログラムと登壇者

■ 渡邊由紀子（九州大学附属図書館、ライブラリーサイエンス専攻）

- 九州大学附属図書館学術サポート課長
- 九州大学大学院統合新領域学府准教授
- 学位論文「ハイブリッド環境下の大学図書館における学術情報サービスの構築」（博士（学術）、2010年、九州大学）
- 「著作権リテラシーを育成する大学図書館」（2020）；（有川節夫共著）「変わりゆく大学図書館員の役割」（2014）